

エアコン補正は早期成立求める

二般質問(2)日に開かれた。江戸整備部長は週休日の適正工期確保標準工期の見直しと答弁。宇育長は公立小中学校エアコン整備に向け費を盛り込んだ補早期成立を国に働と答えた。

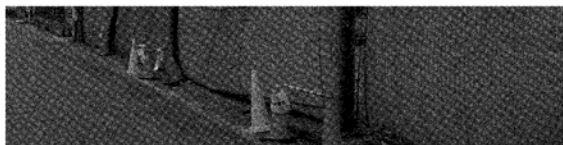
長は佐藤良議員(民主党議員会)の建設業の人材を確保するためには魅力ある職場としていくことが重要であり、働き方改革による労働環境の改善と併せ生産性の向上を図る必要があると答えた。

具体的には国が推進するアイコンストラクションの取り組みを踏まえてICTの活用工事や週休2日工事の試行と併せ、債務負担行為を活用した施工時期の平準化に取り組んでいると説明。また、週休2日の標準工期や諸経費の補正などの積算基準を見直すことと答えた。

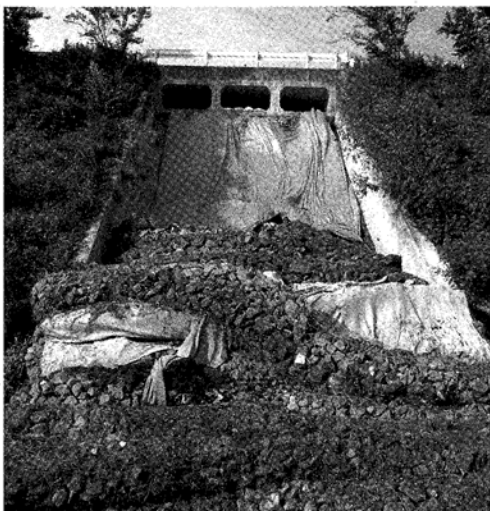
今後とも建設業が地域の守り手として安定して人材を確保できるよう、各種の取り組みを進めていくと述べた。

また、河川掘削工事で発生した土砂の有効利用の質問にも答弁。西日本豪雨出水後の被害状況を踏まえて国が堤防補強のあり方を検討していることから、県としても防災減災対策として堆積土を堤防強化の腹付けに使えないかを検討している。

8月10日の豪雨で設置していたコ22段のうち11段が折れた。



強風で折れた防球ネットの支柱



上阿久津地区の洪水吐施設

復旧方法は被害を受けた法面の施設をすべて撤去して階段状導流水路をコンクリート3面張り再構築し、フトンカゴを設置する計画。詳細設計業務は八興

(宇都宮市)に委託。復旧方法の細部を詰めている。工事は年度内の完了を目指している。

草川用水も8月10日の豪雨で被災。河床の根固め用フトンカゴが41個にわたって壊れ、護岸用のフトンカゴが崩壊。護岸部は左岸12個、右岸8個が被害を受けた。復旧は現状回復を基本としつつ被災前よりフトンカゴを一段高くする考え。設計は市直営。来年1月頃の完了を見込んでいる。

災害関係の予算案は9月市議会最終日の26日に提出され、議決された。一般会計補正予算(第4号)は公園施設と中学校施設の災害復旧事業費3850万円、上阿久津台地土地区画整理事業特別会計補正予算(第1号)は土木施設災害復旧事業費4600万円を追加計上した。

宇田教育長は齋藤剛郎議員(とちぎ自民党議員会)からの質問に答弁。この夏の厳しい暑さを踏まえ、児童生徒の健康を最優先として適切な対応を図るため各市町で積極的な整備の動きが出ており、国でもエアコンが来夏の夏までに設置できるように補正予算を編成する方針を固めたと説明した。

県としては、学校施設環境改善交付金の十分な予算の確保と一刻も早い予算の成立を様々な機会を捉え要望していく。また、国の交付金はエアコン機器本体に加え変電設備の増設・改修

中里建設のアクアピグ工法



工法を説明する中里社長(右)

大を図っていく。

アクアピグ工法では強力な圧縮性と復元力を持つウレタン製のボール(ピグ)を水圧で押し込むことにより、水道管内の錆や結合したミネラル分を除去する。

φ75mmの消火栓から押し込んだピグは管渠の太さに応じて広がり、摩擦と水圧を利用して堆積物を押し出す。開発にあたっては、2013年に研究施設「水理研究開発センター」を整備。使用するウレタンと表面の塗料を徹底的に研究することにより、小口径や屈折した配管でも詰まることのない製品を開発した。

新たな管を布設するのに比べて、必要なコストは4分の1以下。土木工事を必要としないため、工期や交通規制期間を短縮することができる。これまで官民合わせて約40件を受注し、累積で延長4万2653mを施工している。

案件化調査への申請は、インドネシア第5の都市フカシ市の水道公社からの試験施工要望がきっかけ。宇

中里建設(佐野市栃本町1051、中里聡社長)が、国際協力機構(JICA)の中小企業海外展開支援事業案件化調査の対象に選定された。県内企業の提案が調査対象に選定されるのは初めて。今後はインドネシアのフカシ市で現地適合性などを検証し、来年7月をめどにデモ施工を実施。JICAの普及実証事業を活用しながら、インドネシアのみならず周辺アジア諸国でも工法の普及・拡

JICAが案件化調査に採択 県内企業初の快挙

インドネシアでデモ施工へ

中里建設では今後、アクアピグ工法の供給先をアジア諸国に拡大する。さらに貯水したままで配水池内を清掃・調査できるロボットをはじめ、水道の川上(浄水場)から川下(蛇口)までをサポートする水理事業を展開。国内外を問わず、生活の基盤となるライフラインの確保に尽力していく。

都宮大学、建設技研インターナショナル、大和総研とチームを編成し、今年3月に申請。JICAから採択を受けた。

と答えた。

と開催できるようにする。や鋼材加工業者との取引案一行つ。